

第1学年 単元別学習内容一覧

◎ 算数への導入 (わくわく すたあと)					
目 標				指導時数・時期	
○ 幼児期の体験を想起し、ものの集まりに着目しながら個数を比べる活動を通して、親しみながら算数を学ぶ態度を養う。				3時間 2学期制：4月上旬～4月中旬 3学期制：4月上旬～4月中旬	
評 価					
(知) ・ 視点を決めたものの集まりのつくり方や、1対1対応による数の多少の判断の仕方を理解し、視点を決めてものの集まりをつくったり、2つの集まりの要素を1対1に対応づけたりすることができる。 (思) ・ ものの集まり(集合)、仲間づくり(分類)、および1対1対応の見方・考え方を身につける。 (態) ・ 数量に親しむことを通して、算数の学習に意欲的に取り組もうとしている。					
小見出し	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
あそびが つながる うれしいな どきどき がっこう	1	0～3	○これから学ぶ算数に対して、興味や関心、期待をもつ。 ○同じものをぜんぶまとめてかこみ、ものの集まりに着目することを知る。	・算数のオリエンテーション ・ものの集まり(集合) ・仲間づくり(分類)	(態度)同じものをぜんぶまとめてかこむ活動を楽しみながら、これからはじまる算数の学習への意欲をもつ。《観察》 (知技)問いかげに応じて集合をつくらることができる。《観察・発言》
	2	4～5	○2つのものの集まりの要素を1対1に対応づけ、数の多少を調べる。	・1対1対応(線で結び)による数の多少の判断	(知技)2つのものの集まりの要素を線で結び、1対1の対応をつけて多少を調べることができる。《観察》
	3	6～7	○2つのものの集まりを数図ブロックに置き換え、数図ブロックどうしを1対1に対応つけて数の多少を調べる。	・1対1対応(数図ブロックに置き換える)による数の多少の判断	(思判表)2つのものの集まりの要素をブロックに置き換えて、多少を考えている。《観察》

1 かずと すうじ (わくわく すたあと)					
目 標				指導時数・時期	
○ 10までの数について、よみ方、かき方、数の系列、大小を理解し、5までの数の合成・分解の仕方を考える活動や、具体物と数図ブロックを対応させる活動を通して、ものの個数を数で表すよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。				7時間 2学期制：4月中旬～5月上旬 3学期制：4月中旬～5月上旬	
評 価					
(知) ・ 10までの数の数概念、よみ方、かき方、数系列、大小を理解している。 ・ 5までの数の合成・分解ができる。 (思) ・ ものの集まりをとらえ、数を数え、数を表す考え方を身につける。 (態) ・ 10までのものの個数を、数で表すよさを知り、進んで用いようとする。					
小見出し	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
5までの かず	1	8～9	○5までの数について、具体物と半具体物を対応させながら数概念を養い、数を表したり、数字を対応させたりすることができる。	・5までの数の具体物・数図ブロック・数図との対応、数のよみ方と数字 ・具体物-数図-数の対応	(知技)具体物と数図ブロックを対応させたり、1～5の個数を数えたりすることができる。《観察・発言》 (態度)数の表し方に関心をもち、具体物、数図、数字を対応つけて理解しようとしている。《観察》
	2	10	○5までの数について、数字のかき方を理解して正しくかき、順序よく数えることができる。	・前時の復習、5までの数字のかき方、数系列	(知技)1から5までの数字を正しくかくことができる。《観察・ノート》
	3	11	○5までの数について、数字で表し、ものと数を対応させることができる。 ○5までの数の合成・分解ができる。	・5までの数の具体物と数字の対応 ・4・5の合成・分解	(知技)1から5までの個数を数字で表すことができる。《観察》 (思判表)5までの数の合成・分解の仕方を考えている。《観察・発言》
10までの かず	4	12～13	○10までの数について、具体物と半具体物を対応させながら数概念を養い、数を表したり、数字を対応させたりすることができる。	・10までの数の具体物・数図ブロック・数図との対応、数のよみ方と数字	(態度)10までの数についても具体物、数図、数字を対応つけて理解しようとしている。《観察》 (知技)6～10の個数を数えることができる。《発言・観察》
	5	14～15	○10までの数について、数字のかき方を理解して正しくかき、順序よく数えることができる。 ○10までの数について、数字で表し、ものと数を対応させることができる。	・前時の復習、6～10の数字のかき方、数系列 ・10までの数の具体物と数字の対応 ・コラム「がっこうたんけん」	(知技)6から10までの数字を正しくかくことができる。《観察・ノート》 (知技)6から10までの個数を数字で表すことができる。《観察》 (態度)10までの数を身のまわりからみつけようとしている。《観察》
ならべよう	6	16	○10までの数について、唱え方、数字、半具体物を対応させることができる。	・数字と数図ブロックとの対応、1～10の数系列	(知技)数や数字に対応させて数図ブロックを並べることができる。《観察》
いって みよう・くらべよう・かぞえよう	7	17	○10までの数について、順に唱えたり、大小を比較したり、変動する事象の数を数えて数字で表したりすることができる。	・1～10の数系列を唱える、数の大小比較、音の数と数字の対応	(態度)進んで活動に取り組む、10までの数について理解を深めようとしている。《観察》 (知技)10までの数を順や逆に唱えたり、大小を比較したりすることができる。《観察・発言》

2 なんばんめ					
目 標				指導時数・時期	
○ 順序数について、数が順序を表す場合に用いられることを理解し、方向や位置を表すことばでものの順番や位置を表す活動を通して、順序数を用いるよさを感じながら学ぶ態度を養う。				3時間 2学期制：5月中旬 3学期制：5月中旬	
評 価					
(知)・数が順序を表す場合に用いられることを理解し、「前後」「左右」「上下」などの方向や位置を表すことばを正しく用いて、ものの順番や位置を数で表すことができる。					
(思)・「前後」「左右」「上下」などの方向や位置を表すことばに着目し、数を用いてももの順番や位置を表すことを考えることができる。					
(態)・順番や位置を数で表すことよさに気づき、進んで順番や位置を数で表そうとする。					
小見出し	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
	1	18～19	○前後、上下、左右に並んだものの位置を、方向を意識しながら表すことができる。	・上下、左右、前後(1次元)で表したものの位置と順序数	(態度)集合数との違いを知り、順序数について理解しようとしている。《観察》 (知技)並んだものの順番や位置を数で表すことができる。《発言》
	2	20	○「前から何番目」(順序数)と「前から何人」(集合数)との違いを理解する。	・順序数と集合数(4番目、4人)	(思判表)集合数が順序数を適切に判断している。《観察・ノート》
	3	21	○自ら起点を定めて、ものの位置を表すことができる。	・起点(左から、右から)を定めた順序数の表し方	(知技)起点を定めて、並んだものの位置を適切に表すことができる。《発言》

3 いくつと いくつ					
目 標				指導時数・時期	
○ 6, 7, 8, 9, 10の数について、数図ブロックを操作しながらそれぞれの数の合成・分解を考える活動を通して、10の補数関係を理解したり、0について知ったりするとともに、親しみながら学ぶ態度を養う。				7時間 2学期制：5月中旬～5月下旬 3学期制：5月中旬～5月下旬	
評 価					
(知)・6, 7, 8, 9, 10の合成・分解と、10の補数関係を理解する。					
・0について理解し、「1つもない」ことを0と表現できる。					
(思)・1つの数をほかの数と関係づけて見ることができる。					
(態)・数の合成・分解に興味、関心をもち、進んで合成・分解をしようとする。					
小見出し	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
	1	22～23	○いすとりゲームを通して、6の合成・分解ができる。	・6の合成・分解	(態度)1つの数を2つの数の組で表すことに興味をもち、進んで調べようとしている。《観察》 (知技)6の構成について理解し、合成・分解することができる。《発言・ノート》
	2	24	○7の合成・分解ができる。	・7の合成・分解	(知技)7の構成について理解し、合成・分解することができる。《発言・ノート》
	3	25	○8の合成・分解ができる。	・8の合成・分解	(知技)8の構成について理解し、合成・分解することができる。《発言・ノート》
	4	26	○9の合成・分解ができる。	・9の合成・分解	(知技)9の構成について理解し、合成・分解することができる。《発言・ノート》
	5	27	○「おはじきいれ」ゲームを通して、いろいろな10の構成を理解する。	・10の合成・分解	(知技)10の構成について理解し、合成・分解することができる。《発言・ノート》
	6	28	○10の補数を考え、10の合成・分解ができる。	・10の補数	(思判表)10の構成をもとに、10の補数を考えている。《観察》
0と いう かず	7	29	○「おはじきいれ」ゲームを通して、0の意味や使い方を理解する。	・0という数の概念と意味	(知技)具体的な操作を通して0の意味や使い方を理解している。《観察・発言》

4 いろいろな かたち					
目 標				指導時数・時期	
○ 立体について、箱や缶を用いて立体を組み立てる活動や、立体の面に着目して写し取った形をいかして絵をかく活動などを通して、ものの形を認めたり、形の特徴を考えたりするとともに、形に親しみながら学ぶ態度を養う。				3時間 2学期制：6月上旬 3学期制：6月上旬	
評 価					
(知)・身のまわりにある立体の観察を通して、形の特徴をとらえたり、なかま分けしたりすることができる。					
(思)・身のまわりのものを、色や大きさ、材質に関係なく、形としてとらえることができる。					
(態)・立体図形の特徴や機能について興味・関心をもち、楽しく作業をしながら基本的な形をとらえようとする。					
小見出し	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準

	1	30～31	○箱や缶の特徴や機能に着目し、動物や乗り物などの形をつくることができる。	・空き箱や空き缶などを使った立体の構成	(態度)形づくりに興味をもち、素材とするものの形を進んでとらえようとしている。《観察》 (思判表)箱や缶などの形や機能の特徴に着目し、その特徴を作品づくりに活かしている。《観察》
にている かたち	2	32～33	○身のまわりの立体を、形の特徴に着目してなかま分けする。 ○立体を触って判別する活動を通して、立体の特徴や機能についての理解を深める。	・立体図形の分類	(知技)ものの形をその特徴や機能によって分類することができる。《発言・観察》
かたちを うつして	3	34～35	○積み木の面を写しとり、面の形の特徴を利用した絵をかくことを通して、平面図形に親しむことができる。	・立体の面の写し取り、それを使った絵かき遊び	(思判表)写し取った四角、三角、丸などの形に着目し、その特徴を絵かき遊びに活かしている。《観察・発言》

* ふくしゅう

小単元	時	ページ	目標	学習内容	おもな評価規準
	1	36～37	○既習事項の確認と持続	・復習	

5 ふえたり へったり

目 標			指導時数・時期		
○ 変化する数量について、増減を数図ブロックや「ふえた」「へった」ということばで表現することを通して、数の増減の意味を理解し、たし算やひき算の学習の素地を培うとともに、楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。			1時間 2学期制：6月上旬 3学期制：6月上旬		
評 価					
(知)・数量の増減に着目し、「ふえた」「へった」ということばで話をしたり、数図ブロックを操作したりして、増減の意味を理解する。					
(思)・増減の意味を具体的な事象や操作と関連づけて考えることができる。					
(態)・数量が「ふえたり」「へったり」する事象に興味・関心をもち、進んで変化の様子をとらえようとする。					
小見出し	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
	1	38～39	○「パスごっこ」を通して、数量の増減する場面を体験的に理解する。	・「パスごっこ」を通じた数量の増減の体験、数図ブロックの操作による数量の増減	(思判表)数量の増減に着目して、パスごっこの活動に取り組んでいる。《観察》 (知技)数量の増減をブロックで表現することができる。《観察》 (態度)増えたり減ったりする場面を体験する活動に、意欲的に取り組もうとしている。《観察・発言》

6 たしざん(1)

目 標			指導時数・時期		
○ たし算について、式のよみ方、かき方を知り、数図ブロックや計算カードを用いた活動を通して、(1位数)+(1位数)=(10以下の数)の計算ができるようにするとともに、よさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。			7時間 2学期制：6月中旬～6月下旬 3学期制：6月中旬～6月下旬		
評 価					
(知)・たし算が用いられる場面やたし算の記号と式について知り、合併や増加の場면을たし算の式に表し、(1位数)+(1位数)=(10以下の数)の計算をすることができる。					
(思)・合併や増加の場면을、同じたし算と考えることができる。					
(態)・たし算が用いられる場面に興味をもち、たし算の式に表せるよさを知り、進んでたし算を用いようとする。					
小見出し	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
あわせて いくつ	1	40～41	○数図ブロックを操作し、「合併」の場面を理解する。	・数図ブロックの操作による合併の場面理解	(知技)具体的な操作を通して、合併の場面を理解している。《観察》
	2	42～43	○たし算の式を知り、たし算の式にかいて答えを求めることができる。	・合併の場면을式にかいて答えを求めること 《たしざん、しき、+、=》	(知技)合併の場면을たし算の式に表し、答えを求めることができる。《観察・ノート》
ふえると いくつ	3	44	○数図ブロックを操作し、「増加」の場面を理解する。	・数図ブロックの操作による増加の場面理解	(知技)具体的な操作を通して、増加の場面を理解している。《観察》
	4	45	○「増加」の場面でも、たし算の式にかいて答えを求めることができる。	・増加の場면을式にかいて答えをもとめると計算練習	(知技)増加の場면을たし算の式に表し、答えを求めることができる。《観察・ノート》
たしざんの もんだい	5	46	○具体的な場면을たし算の式に表す。	・たし算になる文章題	(思判表)問題をよんで合併や増加の場面であることを正しくとらえて、たし算の式に表している《発言・ノート》
たしざんの かあど	6・7	47	○たし算のカードを使って、たし算について習熟する。	・計算カードを使ったたし算の練習	(態度)(1桁)+(1桁)で答えが10までのたし算を確実に身に付けようとしている。《観察》

* ふくしゅう

小単元	時	ページ	目標	学習内容	おもな評価規準
	1	48～49	○既習事項の確認と持続	・復習	

7 ひきざん(1)

目 標				指導時数・時期	
○ ひき算について、式のよみ方、かき方を知り、数図ブロックや計算カードを用いた活動を通して、(10以下の数)-(1位数)の計算ができるようにするとともに、よさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。				10時間 2学期制：6月下旬～7月中旬 3学期制：6月下旬～7月中旬	
評 価					
(知)・ひき算の記号や式のよみ方、かき方、計算の仕方を理解し、求残、求部分、求差の場面を数図ブロックで操作し、ひき算の式に表して答えを求めることができる。					
(思)・求残、求部分、求差の場面を同じひき算と考えることができる。					
(態)・求残、求部分、求差をひき算の式に表すよさを知り、進んで式に表し、差を求めようとする。					
小見出し	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
のこりは いくつ	1	50～51	○数図ブロックを操作し、「残りの数を求める」場面を理解する。	・数図ブロックの操作による求残の場面理解	(知技)具体的な操作を通して、求残の場面を理解している。《観察》
	2	52～53	○ひき算の式を知り、「ひき算の式にかいて答えを求めることができる。	・求残の場面をひき算の式にかいて答えを求めること《一、ひき算》	(知技)求残の場面をひき算の式に表し、答えを求めることができる。《観察・ノート》
	3	54	○数図ブロックを操作し、「部分の数を求める」場面を理解する。	・求部分の場面をひき算の式にかいて答えを求めること	(思判表)具体的な操作を通して、求部分の場面についてもひき算の式に表そうとしている。《観察・発言》
ひきざんの かあど	4・5	55	○ひき算のカードを使って、ひき算について習熟する。	・計算カードを使ったひき算の練習	(態度)(+、1桁)-(1桁)のひき算を確実に身に付けようとしている。《観察》
ちがいは いくつ	6	56	○数図ブロックを操作し、「ちがいを求める」場面を理解する。	・数図ブロックの操作によるひき算(求差)	(知技)具体的な操作を通して、求差の場面を理解している。《観察》
	7	57	○「いくつ多いかを求める」場面でも、ひき算の式にかいて答えを求めることができる。	・求差の場面を式にかいて答えを求めること	(知技)求差の場面をひき算の式に表し、答えを求めることができる。《観察・ノート》
	8	58	○「ちがいを求める」場面でも、ひき算の式にかいて答えを求めることができる。	・ちがいを求めること	(思判表)数の多少に着目して、「ちがいを求める式を考えている。《発言・ノート》
ひきざんの もんだい	9	59	○具体的な場面をひき算の式に表す。	・ひき算になる文章題	(思判表)問題をよんで求残や求差の場面であることを正しくとらえて、ひき算の式に表している《発言・ノート》
おはなしづくり	10	60～61	○たし算やひき算の式を具体的な場面に表すことで、たし算やひき算の式について理解を深める。	・絵を見て、 $3+4=7$ や $7-3=4$ になるお話をつくる活動	(思判表)式からどんな場面ができるかを正しく判断している。《発言・観察》

8 かずしらべ

目 標				指導時数・時期	
○ ものの個数について、簡単な絵や図に表したり、よみとったりする活動を通して、身の回りの事柄の特徴をとらえることができるようにするとともに、数量を整理するよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。				1時間 2学期制：7月中旬 3学期制：7月中旬	
評 価					
(知)・ものの個数について、簡単な絵や図に表したり、それらをよみとったりできる。					
(思)・ものの個数に着目し、身のまわりの事柄の特徴を捉えることができる。					
(態)・身のまわりの事柄に関心を持ち、ものの個数を簡単な絵や図に表すよさに気づき、進んで数量を整理しようとする。					
小見出し	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
	1	62～63	○ものの数を絵グラフに表し、多少を比較するなどして、事柄の特徴を捉える。	・絵グラフによるものの個数の整理と表現、数の多少の考察	(思判表)ものの個数に着目して、整理しようとしている。《発言・観察》 (知技)ものの数を絵グラフに表すことができる。《観察・ノート》 (態度)絵グラフをみて、ものの個数の多少や特徴を判断しようとしている。《発言・観察》

* ふくしゅう

小単元	時	ページ	目標	学習内容	おもな評価規準
	1	64～65	○既習事項の確認と持続	・復習	

9 10より おおきい かず

目 標				指導時数・時期	

○ 20までの数について、よみ方、かき方、数の系列、大小を理解し、「10といくつ」という数構成の考え方にもとづいて加減計算をしたり数を表したりするとともに、数に親しみながら学ぶ態度を養う。					8時間
評 価					2学期制：7月中旬～9月上旬 3学期制：9月上旬～9月下旬
(知)・20までの数について、構成、系列や大小関係を理解し、よんだり、かいたりすることができる。 ・数構成にもとづく加減計算ができる。					
(思)・「10といくつ」という数の考え方ができる。数構成にもとづく加減計算の仕方を考えることができる。					
(態)・「10といくつ」によって20までの数を表すよさを知り、進んで用いようとする。					
小見出し	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
	1	66～67	○11から20までの数の数え方とよみ方を理解する。	・ブロック操作による20までの数調べ ・20までの数のよみ方とかき方(命数法と記数法)	(態度)10より大きい数に関心を持ち、意欲的に数えようとしている。《観察》 (知技)20までの数を数えたり表したりすることができる。《発言・観察》
	2	68	○11から20までの数について、かくこと、数字と数図ブロックを対応させること、大小比較をすることができる。	・20までの数の数字や数図ブロックとの対応、数の大小比較	(知技)20までの数を数字や数図ブロックで表すことができる。《観察・ノート》 (知技)20までの数の大小を比較することができる。《発言・観察》
	3	69	○「2ずつ」「5ずつ」の数え方を工夫し、それをを用いて教えることができる。	・20までの数の数え方の工夫(2とび、5とび)	(思判表)数のまとまりに着目し、「2ずつ」「5ずつ」で工夫して数えている。《発言・観察》
10といくつ	4	70～71	○「10といくつ」という見方を通して、20までの数について理解を深める。 ○身のまわりから、20までの数のものをみつけることができる。	・20までの数の構成、 ・20までの数さがし	(思判表)10のまとまりに着目し、数を構成したり分解したりしている。《発言・観察》 (態度)身のまわりのものの数に関心を持ち、20までの数のものをみつけようとしている。《観察》
かずのならばかた	5	72～73	○数字カードを並べる活動を通して、20までの数の系列について理解し、数直線上の数をよんだり表したりすることができる。	・20までの数の系列、数の直線	(知技)20までの数の系列を理解し、数直線上の数をよんだり表したりすることができる。《発言・ノート》
たしざんとひきざん	6	74	○20までの数の構成に基づくたし算やひき算ができる。	・10+(1桁)のたし算とその逆のひき算(10+4, 12-2)	(知技)10+(1桁)のたし算の仕方を理解し、計算できる。《発言・ノート》 (知技)(10)-(1桁)で答えが10になるひき算の仕方を理解し、計算できる。《発言・ノート》
	7	75	○20までの数の構成に基づくたし算やひき算ができる。	・(10)+(1桁)で繰り上がりのないたし算とその逆のひき算(12+4, 15-3)	(知技)(10)+(1桁)のたし算やひき算の仕方を理解し、計算できる。《観察・ノート》
学びのまとめ	8	76～77	○学習内容の理解を確認する。	・評価とふりかえり	

* ふくしゅう

小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
	1	78～79	○既習事項の確認と持続	・復習	

10 なんじ なんじはん

目 標					指導時数・時期
○ 時計や時刻について、長針、短針のさす目盛りに着目して時刻を考えることを通して、何時・何時半をよんだり文字盤で表したりできるようにするとともに、そのよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。					1時間 2学期制：9月中旬 3学期制：9月下旬
評 価					
(知)・何時・何時半の時刻のよみ方を理解し、時刻をよんだり文字盤で表したりすることができる。					
(思)・時計の長針・短針のさす目盛りに着目して、時刻を考えることができる。					
(態)・日常の生活場面に即して、時計を観察し、長針・短針の目盛りを見て、時刻をよもうとする。					
小見出し	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
	1	80～81	○時刻のよみについて、興味と関心をもつ。 ○時計のしくみを知り、何時、何時半の時刻をよみ、つくることができる。	・何時、何時半の時刻をよむこと、表すこと 《○時、○時半》	(態度)生活場面の時刻に関心を持ち、時刻をよもうとしている。《観察》 (思判表)長針・短針の位置に着目して、活動している。《観察》 (知技)何時、何時半の時計をよんだりつくったりすることができる。《発言・観察》

11 おおきさくらべ(1)

目 標					指導時数・時期
○ ものの長さ・かさについて、直接比較や間接比較を用いて長さやかさを調べる活動を通して、長さ・かさの概念を理解するとともに親しみながら学ぶ態度を養う。					5時間 2学期制：9月中旬～9月下旬 3学期制：9月下旬～10月上旬
評 価					
(知)・長さ・かさの概念を理解し、具体物の長さ・かさの比較ができる。					

(思)・長さ・かさの比較を通して、測定の基礎となる考え方を身につける。
 (態)・長さ・かさのくらべ方に興味をもち、そのよさを知り、進んでいかそうとする。

小見出し	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
ながさくらべ	1	82~83	○長さ比べという活動に興味・関心をもち、直接比較を用いて長さを比べることができる。	・長さの直接比較	(態度)長さの比べ方に興味・関心をもち、工夫して長さを比べようとしている。《観察》 (知技)直接比較の方法を理解し、長さを比べることができる。《観察》
	2	84	○間接比較を用いて、身近な場面で長さを比べることができる。	・長さの間接比較	(知技)身近なものの長さや高さをテープに写し取って、比べることができる。《観察》
	3	85	○机の縦と横の長さを比べる活動などを通して、基準量のいくつ分で長さを比べられることを理解し、そのよさに気づく。	・長さの任意単位による測定	(思判表)基準とする長さのいくつ分かで長さを表したり、比べたりしている。《観察》
かさくらべ	4	86	○一方の容器の水を他方に移したり、別の容器に移したりして、かさ比べをする。	・かさの直接比較、間接比較	(態度)かさの比べ方に興味・関心をもち、進んで活動しようとしている。《観察》 (知技)いれものに入る水のかさを比べることができる。《観察》
	5	87	○コップを単位として、その何杯分かでかさを比べられることを理解し、そのよさに気づく。	・かさの任意単位による測定 ・箱のかさの直接比較	(思判表)コップの何杯分かでかさを表したり、比べたりしている。《観察》

12 3つの かずの けいさん

目 標			指導時数・時期		
○ 3つの数の計算について、増えたり減ったりする場面を1つの式に表して計算することができるようにするとともに、式に表すよさを感じながら学ぶ態度を養う。			4時間 2学期制：9月下旬～10月上旬 3学期制：10月上旬～10月中旬		
評 価					
(知)・3つの数をたしたり、ひいたりする計算の意味を知り、1つの式に表して計算することができる。					
(思)・3つの数をたしたり、ひいたりする計算を1つの式に表して考えることができる。					
(態)・3つの数をたしたり、ひいたりする計算を1つの式に表すことのよさを知り、進んで用いようとする。					
小見出し	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
	1	88~89	○3つの数の計算(+,+)の場面を理解し、計算ができる。 ○1つの式に表すよさを知り、進んで用いようとする。	・3口のたし算 (a+b+c)	(知技)2回たし算する場面を、1つの式に表して計算できる。《ノート》
	2	90	○3つの数の計算(-,-)の場面を理解し、1つの式に表して計算することができる。	・3口のひき算 (a-b-c)	(態度)2回ひき算する場面を、たし算のときと同じように考えて、1つの式に表そうとしている。《発言・観察》 (知技)2回ひき算する場面を、1つの式に表して計算できる。《ノート》
	3	91	○3つの数の計算(-,+)の場面を理解し、計算ができる。	・加減混合の3口の計算 (a-b+c)	(思判表)数量の増減に着目して、ひいてたす場面を1つの式に表している。《ノート》
	4	92	○3つの数の計算(+,-)の場面を理解し、計算ができる。	・加減混合の3口の計算 (a+b-c) ・コラム「4つの かずの けいさん」	(思判表)数量の増減に着目して、たしてひく場面を1つの式に表している。《ノート》

* ふくしゅう

小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
	1	93	○既習事項の確認と持続	・復習	

13 たしざん(2)

目 標			指導時数・時期		
○ (1位数)+(1位数)について、繰り上がりのある場合の計算の仕方を通して、計算が確実にできるようにするとともに、よさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。			9時間 2学期制：10月中旬～11月上旬 3学期制：10月中旬～11月上旬		
評 価					
(知)・繰り上がりのある計算の仕方について理解し、(1位数)+(1位数)の繰り上がりのある計算ができる。					
(思)・10の補数に着目して、加数を分解してたす考え方ができる。					
(態)・繰り上がりのある計算に興味をもち、「10の補数」という考えのよさに気づき、進んで計算しようとする。					
小見出し	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準

	1	94~95	○(1位数)+(1位数)で繰り上がりのあるたし算について、数図ブロックの操作を通して、10の補数を利用した計算方法を見出すことができる。	・ブロック操作による繰り上がりのある(1位数)+(1位数)の計算の仕方の理解	(態度)答えが10をこえることに気づき、ブロックを操作して10のまとまりをつくって計算しようとしている。《発言・ノート》 (知技)ブロック操作を通して、繰り上がりのあるたし算ができる。《ノート》
	2	96~97	○(1位数)+(1位数)で繰り上がりのあるたし算について、10の補数を利用した計算方法をつくり上げることができる。	・繰り上がりのあるたし算の仕方を説明する活動	(思判表)被加数を分解して、繰り上がりのある(1位数)+(1位数)のたし算の仕方を考えたり説明したりしている。《発言・観察》
	3	98	○被加数が6以上(9, 8, 7, 6)のたし算の計算ができる。 ○合併の場面のたし算を解くことができる。	・被加数が6以上のたし算の練習と適用題	(知技)加数分解によるたし算の仕方を理解し、計算できる。《ノート》
	4	99	○被加数が5以下(5, 4, 3, 2)のたし算の計算ができる。	・被加数が5以下のたし算の練習と適用題 ・コラム「4+8のけいさんのしかた」	(思判表)被加数や加数に対する10の補数に着目すればよいことに気づいている。《発言・ノート》
たし算の	5	100	○たし算カードを使って、繰り上がりのあるたし算を練習し、習熟する。	・計算カードを使ったたし算の練習	(知技)繰り上がりのある(1位数)+(1位数)のたし算が確実にできる。《観察・ノート》
かあど	7				
	8	101	○たし算カードの答えが同じになるものを順序よく並べ、並び方のきまりを調べる。	・計算カードの答えによる分類ときまり	(態度)答えが同じたし算カードを並べるのに、順序よく整理しようしたり、きまりを見いだそうとしていたりしている。《発言・観察》
学びの	9	102~103	○学習内容の理解を確認する。	・評価とふりかえり、活用問題	
まとめ					

14 かたちづくり

		目 標		指導時数・時期	
		○ 形づくりについて、色板や棒などを使って様々な形を作る活動を通して、図形を構成する力と観察する力を身に付けるとともに、形に親しみながら学ぶ態度を養う。		5時間 2学期制：11月上旬～11月中旬 3学期制：11月上旬～11月中旬	
		評 価			
		(知)・色板や棒などを使っていろいろな形が構成されていることを理解し、いろいろな形をつくることができる。			
		(思)・図形を構成したり観察したりするときの基本的な見方・考え方を身につける。			
		(態)・色板や棒などを使っていろいろな形をつくることに興味・関心をもち、意欲的に取り組もうとする。			
小見出し	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
	1	104	○色板を使っていろいろな形をつくることに興味・関心をもち、意欲的に図形の構成に取り組む。	・色板を使った形づくり	(態度)いろいろな形をつくることに、興味・関心を持って、色板並べに取り組んでいる。《観察》 (知技)色板でいろいろな形を作ることができる。《観察》
	2	105	○色板の並べ方を工夫して、影絵の形を構成することができる。	・色板を使った形の面構成	(思判表)影絵の形を観察して、色板の並べ方や枚数を考えている。《観察・発言》
	3	106	○棒の並べ方を工夫して、いろいろな形を構成することができる。	・棒を使った形の線構成	(知技)色棒でいろいろな形をつくることできる。《観察》
	4	107	○点をつないでいろいろな形を構成することができる。	・点つなぎによる形の点構成、線構成	(知技)点をつないでいろいろな形をつくることできる。《観察》
	5	108	○図形の変化に着目して、色板や棒を動かすことができる。	・色板や棒を移動させて図形を変形させる活動	(思判表)形の同じところや違うところに着目して、色板や棒を動かしている。《観察》

* ふくしゅう

小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
	1	109	○既習事項の確認と持続	・復習	

15 ひきざん(2)

		目 標		指導時数・時期	
		○ (十何)-(1位数)について、繰り下がりのある場合の計算の仕方を考えることを通して、計算が確実にできるようにするとともに、よさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。		11時間 2学期制：11月中旬～12月上旬 3学期制：11月中旬～12月上旬	
		評 価			
		(知)・繰り下がりのある計算の仕方について理解し、(十何)-(1位数)で、繰り下がりのある計算ができる。			
		(思)・減加法の考え方ができる。			
		(態)・繰り下がりのある計算に興味をもち、「10といくつ」という数の仕組みを用いるよさに気づき、進んで計算しようとする。			
小見出し	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準

	1	110~111	○(十何)-(1位数)で繰り下がりのあるひき算について、数図ブロックを操作し、計算方法をみつけることができる。	・ブロック操作による繰り下がりのあるひき算の仕方の理解	(態度)被減数を10といくつとみて、ブロックを操作して計算の仕方を考えている。《発言・ノート》 (知技)ブロック操作を通して、繰り下がりのあるひき算ができる。《ノート》
	2	112~113	○(十何)-(1位数)で繰り下がりのあるひき算について、計算方法をつくり上げることができる。	・繰り下がりのあるひき算の仕方を説明する活動	(思判表)被減数の10からひいて残りをたすという、繰り下がりのある(十何)-(1位数)のひき算の仕方を考えたり説明したりしている。《発言・観察》
	3	114	○減数が6以上(9, 8, 7, 6)のひき算の計算ができる。 ○求差の場面のひき算を解くことができる。	・減数が6以上のひき算の練習と適用題	(知技)減加法によるひき算の仕方を理解し、計算できる。《ノート》
	4	115	○減数が5以下(5, 4, 3, 2)のひき算ができる。	・13-4などの減数が5以下のひき算の練習と適用題 ・コラム「13-4のけいさんのしかた」	(思判表)被減数を10といくつとみて、10からひいたり、いくつからひいたりすればよいことに気づいている。《発言・ノート》
ひきさんの かあど	5~7	116	○ひき算のカードを使って、繰り下がりのあるひき算を練習し、習熟する。	・計算カードを使ったひき算の練習	(知技)繰り下がりのある(十何)-(1位数)のひき算が確実にできる。《観察・ノート》
	8	117	○ひき算のカードの答えが同じになるものを順序よく並べ、並び方のきまりを調べる。	・計算カードの答えによる分類ときまり	(態度)答えが同じひき算カードを並べるのに、順序よく整理しようしたり、きまりを見いだそうとしていたりしている。《発言・観察》
かずあて げえむ	9	118	○数のカードを用いた「かずあて げえむ」を通して、加減の計算の理解と習熟を図る。 ○被加(減)数もしくは加(減)数のいずれかを裏返すことにより、□を使った式の素地活動を行う。	・等式の穴埋め(□を使った式の素地)	(知技)数字や演算記号のカードを並べて、等式をつくることができる。《観察》 (思判表)等式が成り立つように、あてはまる数を見つけている。《発言・観察》
けいさんの かみしばい	10	119	○たし算やひき算の紙芝居づくりを通して、計算のお話をつくること(作問)に興味や関心をもつ。	・8+6や12-7になる問題をつくる活動	(思判表)式からどんな場面ができるかを正しく判断し、問題を作っている。《発言・観察》 (態度)計算のお話をつくることに興味をもち、意欲的に取り組もうとしている。《観察》
学びのまとめ	11	120~121	○学習内容の理解を確認する。	・評価とふりかえり、活用問題	

16 0の たしざんと ひきざん

目 標			指導時数・時期		
○ 0を含むたし算、ひき算について、0の扱いを考えることを通して、計算の意味を理解し、計算ができるようにするとともに、日常生活にいかしながら学ぶ態度を養う。			2時間 2学期制：12月上旬 3学期制：12月上旬		
評 価					
(知)・0を含むたし算・ひき算の仕方について理解し、計算することができる。 ・0についての理解を深める。 (思)・0を含む場合もたし算・ひき算を用いることを考えることができる。 (態)・0のたし算・ひき算を用いる場面に興味・関心をもち、進んで用いようとする。					
小見出し	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
	1	122	○0のたし算の場面を理解し計算ができる。	・0のたし算の意味とその仕方	(態度)0を使って式に表そうとしている。《発言・ノート》 (知技)0のたし算ができる。《ノート》
	2	123	○0のひき算の場面を理解し計算ができる。	・0のひき算の意味とその仕方	(思判表)他の数と同じように0を扱ってよいことに気づき、式に表している。《観察・ノート》 (知技)0のひき算ができる。《ノート》

17 ものと ひとの かず

目 標			指導時数・時期		
○ ある数量を他の数量に置き換える問題や順序数に関する問題について、絵や図を用いて考えることを通して、それらの問題を解くことができるようにするとともに、そのよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。			3時間 2学期制：12月中旬 3学期制：12月中旬		
評 価					
(知)・ある数量を他の数量に置き換えることの意味を理解することができる。 ・順序数と集合数について理解を深めることができる。 (思)・絵や図を活用して、ある数量を他の数量に置き換えて考えたり、並んでいる数からその順番を考えたりすることができる。 (態)・図を使って考えるよさに気づき、進んでいかそうとする。					
小見出し	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準

	1	124	○ある数量を他の数量に置き換える問題を解くことができる。	・ものと人の数を対応させた加減の計算	(思判表)9人を9枚に置き換えて考えている。《発言・観察》 (知技)人の数ともの数との対応を理解している。《観察・ノート》
なんばんめ	2	125	○順序数と集合数の問題を解くことができる。	・集合数と順序数の関係	(思判表)前に7人いることをもとに、順序を考えている。《発言・ノート》 (知技)集合数と順序数の関係を理解している。《観察・ノート》
	3	126	○順序数と集合数の問題を解くことができる。	・集合数と順序数の計算	(態度)順序や並んでいる数を図に表して考えようとしている。《観察・ノート》 (思判表)順序数を集合数にとらえ直して、並んでいる人数を求めている。《発言・ノート》

活 もの の いち

小見出し	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
	1	127	○「たからさがし」の活動を通して、平面上の位置の表し方を理解する。	・上下左右(2次元)で表したものの位置	(知技)ものの位置の表し方を理解し、見つけることができる。《観察》 (態度)いろいろな表し方で、工夫してものの位置を伝えようとしている。《発言・観察》

* ふくしゅう

小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
	1	128～129	○既習事項の確認と持続	・復習	

18 大きい かず

			目 標	指導時数・時期	
			○100までの数や100を少しこえる数について、ものの個数や順番を正しく教える活動を通して、数の系列を理解し、大小判断をできるようにするとともに、数に親しみながら学ぶ態度を養う。	13時間 2学期制：1月中旬～2月上旬 3学期制：1月中旬～2月上旬	
評 価					
(知)・十進法を理解し、100までの数や100を少しこえる数の表し方や意味がわかる。100までの数や100を少しこえる数について、数字でかいたり数直線上に表したりするとともに、数の大小比較ができる。					
(思)・100までの数を「10がいくつと1がいくつ」、100を少しこえる数を「100といくつ」という見方でとらえることができる。					
(態)・100までの数を10ずつまとめて数えるよさに気づき、身のまわりから進んで100までの数字をみつけようとする。					
小見出し	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
かずの かぞえかた	1	130～131	○数え棒の数え方を工夫し、10のまとまりをつくって数えるよさに気づくとともに、20をこえる数の数え方を理解する。	・20～100までの数の数え方(命数法) ・数え方の工夫(10とび)	(態度)20をこえる数に関心をもち、数の数え方や表し方を身につけようとしている。《観察・発言》 (知技)10のまとまりをつくって、20をこえる数を数えることができる。《観察》
かずの かきかた	2	132	○2位数の十進位取り記数法について理解する。	・100までの数の記数法 《十のくらい、一のくらい》	(知技)数字をかく位置について理解し、2位数を数字でかくことができる。《ノート》 (思判表)数字をかく位置に着目し、数の表し方を考えたり説明したりしている。《発言・観察》
	3	133	○十進位取り記数法に基づいて、2位数の構成の理解を深める。	・100までの数の構成	(思判表)「10が○つと1が△つ」という見方を働かせて2位数をとらえている。《観察・ノート》
100までの かず	4	134	○100までの数の数え方や表し方に習熟し、100について理解する。	・100という数(命数法と記数法) 《100, 百》	(知技)具体物を数えることを通じて、100という数について理解している。《観察》
	5	135	○100までの数の数表を通して、数構成や数の系列の理解を深める。	・100までの数の数表	(知技)具体物と対応させて、100までの数の系列について理解している。《観察》 (態度)100までの数表に関心をもち、きまりを見つけようとしている。《発言・観察》
	6	136	○100までの数の大小について理解する。	・100までの数の大小比較	(思判表)上の位の数から比べて、2位数の大小比較をしている。《発言・観察》

	7・8	137	○100までの数の系列や順序を理解する。 ○すごろく遊びを通して、100までの数について理解を深める。	・100までの数の数系列	(知技)100までの数の系列や順序を理解している。《観察・発言》 (態度)100までの数の系列をいかして、意欲的にすごろく遊びに取り組もうとしている。《観察》
学 さがして みよう	9	138	○身のまわりで100までの数が使われている場面を調べ、数字を使うよさに気づくことができる。	・100までの数字さがし	(態度)数字の使い方に関心を持ち、身のまわりにある100までの数字を意欲的に探そうとしている。《観察》
かいもの	10	139	○買い物場面でお金の出し方を考えることを通して、数の合成・分解に習熟し、数の感覚を豊かにする。	・買い物の場面を題材とした、数を多面的に捉え数の感覚を豊かにする活動	(思判表)お金の出し方をいろいろに考えている。《発言・観察》
100を こえる かず	11	140	○100をこえる数の構成(よみ方、表し方)について理解する。	・100を少しこえる数の構成、よみ方とかき方(命数法と記数法)	(思判表)「100と何十何」という見方を働かせて100をこえる数をとらえている。《観察・発言》 (知技)100をこえる数の構成について理解し、よんだりかいたりすることができる。《発言・ノート》
	12	141	○100をこえる数の順序について理解する。	・100を少しこえる数の数系列、大小比較	(知技)100をこえる数の系列について理解し、100をこえるかこえないかの判断ができる。《観察・ノート》
学びのまとめ	13	142～143	○学習内容の理解を確認する。	・評価とふりかえり、活用問題	

19 なんじ なんぷん

目 標			指導時数・時期		
○ 時計や時刻について、長針、短針のさす目盛りに着目して時刻を考えることを通して、何時何分をよんだり文字盤で表したりできるようにするとともに、そのよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。			2時間 2学期制：2月中旬 3学期制：2月中旬		
評 価					
(知)・時計の文字盤の仕組みについて知り、何時何分の時刻のよみ方を理解している。 ・何時何分の時刻をよんだり、文字盤で表したりすることができる。					
(思)・時計の長針・短針のさす目盛りに着目して、時刻を考えることができる。					
(態)・日常の生活場面に即して、進んで何時何分をよもうとする。					
小見出し	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
	1	144～145	○時計のよみに興味をもち、何時何分の時刻をよむことができる。	・何時何分の時刻をよむこと 《○時○分》	(態度)生活場面の時刻に関心を持ち、時刻のよみ方を身につけようとしている。《観察》 (思判表)長針・短針のさす目盛りに着目して、活動している。《観察》 (知技)何時何分の時刻をよむことができる。《発言・観察》
	2	146	○何時何分の時刻を正しくよんだり、つくったりすることができる。	・何時何分の時刻を表すこと	(知技)何時何分をつくったり、よんだりすることができる。《観察》

20 おなじ かずずつ

目 標			指導時数・時期		
○ 同じかずつに分ける場面について、ブロックを使って等分したりまとめて数えたりする活動や、図や式にかいて確かめる活動を通して、乗法や除法の素地を培うとともに、よさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。			1時間 2学期制：2月中旬 3学期制：2月中旬		
評 価					
(知)・数図ブロックの操作を通して、乗法や除法の素地となる「同じかずつ」の意味を理解する。 ・乗法や除法の素地となるブロック操作ができ、それを図や式にかいて確かめることができる。					
(思)・等分したりまとめて数えたりして、乗法や除法の素地的な見方で数を考えることができる。					
(態)・具体物を等分したりまとめて数えたりし、それを進んで整理し表そうとする。					
小見出し	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
	1	147	○かけ算やわり算の素地となる「同じかずつ」の意味を理解し、数の感覚を豊かにする。	・数図ブロックを用いて数を等しく分けたりまとめて数えたりする活動(かけ算、わり算の素地)	(態度)等しく分けることに関心を持ち、操作や式の意味を理解しようとしている。《観察》 (思判表)同じ数がいくつかけられることに着目して活動している。《観察》 (知技)ブロックを操作して同じかずつに分けたり、式を使って分け方を確かめたりできる。《観察》

活 たすのかな ひくのかな

小見出し	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
	1	148～149	○たし算やひき算の場面に即して、適切にたし算やひき算の演算決定をすることができる。	・加減の演算決定	(思判表)演算決定の根拠を考えたり説明したりしている。《発言・ノート》

* ふくしゅう					
小単元	時	ページ	目標	学習内容	おもな評価規準
	1	150～151	○既習事項の確認と持続	・復習	

21 100までの かずの けいさん					
目 標				指導時数・時期	
○ 100までの数について、数構成に基づくたし算、ひき算の計算の仕方を考えることを通して、計算ができるようにするとともに、そのよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。				4時間 2学期制：2月下旬 3学期制：2月下旬	
評 価					
(知)・数構成にもとづくたし算、ひき算の計算の仕方を理解し、100までの数のたし算、ひき算ができる。 (思)・数構成にもとづいて、たし算、ひき算の計算の仕方を考えることができる。 (態)・数構成にもとづいて、たし算、ひき算ができるよさを知り、進んで用いようとする。					
小見出し	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
	1	152	○10のいくつ分と考えて、100までの数の(何十)±(何十)の計算ができる。	・(何十)±(何十)の計算(数構成に基づく計算)	(思判表)計算棒の操作を通して、10のいくつ分になるかを考えて計算している。《発言・観察》 (知技)(何十)±(何十)の計算ができる。《ノート》
	2	153	○100までの数の構成に基づいた計算をすることができる。	・(何十)+(何)のたし算と、その逆の(何十)-(何)=(何十)のひき算	(態度)2位数の構成についての見方(「何十何」を「何十と何」とみる)を働かせて、計算しようとしている。《観察・発言》 (知技)(何十)+(何)のたし算、(何十)-(何)=(何十)のひき算ができる。《観察・ノート》
	3	154	○100までの数の(何十何)+(何)の計算(繰り上がりなし)ができる。	・(何十何)+(何)で繰り上がりのないたし算 ・コラム「25+10の けいさん」	(知技)(何十何)+(何)で繰り上がりのないたし算ができる。《ノート》
	4	155	○100までの数の(何十何)-(何)の計算(繰り下がりなし)ができる。	・(何十何)-(何)で繰り下がりのないひき算 ・コラム「36-10の けいさん」	(知技)(何十何)-(何)で繰り下がりのないひき算ができる。《ノート》

22 おおい ほう すくない ほう					
目 標				指導時数・時期	
○ 求大・求小の場面の問題について、数図ブロックや絵、式などを用いて考えることを通して、それらを理解し問題を解くことができるようにするとともに、そのよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。				2時間 2学期制：3月上旬 3学期制：3月上旬	
評 価					
(知)・求大・求小の意味について理解し、問題を解くことができる。 (思)・数図ブロックや絵、式などを用いて、求大・求小の問題を考えることができる。 (態)・日常の生活場面で求大・求小の問題に興味・関心をもち、進んで解こうとする。					
小見出し	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
	1	156	○求大(大きい方を求める)の問題を、ブロックの操作や式を用いて求めることができる。	・求大の問題	(態度)ブロックを並べて数量の関係をとらえようとしている。《観察》 (思判表)数量の関係をもとに、大きいほうの数量の求め方を考えている。《発言・ノート》
	2	157	○求小(小さい方を求める)の問題を、ブロックの操作や式を用いて求めることができる。	・求小の問題	(知技)ブロックを並べて数量の関係を理解することができる。《観察》 (思判表)数量の関係をもとに、小さいほうの数量の求め方を考えている。《発言・ノート》

23 大きさをくらべ(2)					
目 標				指導時数・時期	
○ 広さについて、広さを直接比べたり、任意単位を用いて比べたりする活動を通して、身のまわりのものの広さを比較し、広さの概念を養うとともに、そのよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。				1時間 2学期制：3月上旬 3学期制：3月上旬	
評 価					
(知)・広さの比べ方や任意単位を用いた測定の仕方を理解し、広さを直接比べたり任意単位を用いて比べたりすることができる。 (思)・状況に応じて、比較する方法を考えることができる。 (態)・身のまわりにある広さに関心をもち、進んで比べようとする。					
小見出し	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準

	1	158～159	○広さを比べる方法を考え、重ねたり□の数を数えたりすることで、広さを比べられることを理解する。	・広さの直接比較、任意単位による測定	(態度)広さの比べ方に興味・関心を持ち、進んで活動しようとしている。《観察》 (知技)直接比較の方法を理解し、広さを比べることができる。《観察》 (思判表)基準とする広さのいくつかで広さを表したり、比べたりしている。《観察》
--	---	---------	---	--------------------	--

活 かえますか?かえませんか?

小見出し	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
	1	160～161	○1つの品物を50円で買えるか買えないかの場面で、50より大きい、小さいという数の範囲で判断をする。(見積もりの素地)	・数の範囲の見積もりの素地	(思判表)1つのものが50円で買えるかどうかを判断し、それを根拠に2つのものが100円で買えるかどうかを考えたり説明したりしている。《発言・ノート》

* もう すぐ 2年生(1年のふく習)

小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
	1	162～163	○1年生の学習内容の確認と持続	・復習	
	2	164～165			
	3	166～167			

★ けいさんの れんしゅう

ページ	学習内容	指導時数
168～170	・1年生で学習した計算の練習	

※「けいさんの れんしゅう」は、少人数学習や自学自習など柔軟な扱いができるように時間配当をしていません。

すべての児童が一律に学習する必要はありません。